

この本紹介

能登繁幸 著「ちょっと斜にかまえたエッセイ第2集」

以前(98号)にこの場をかりて、元北海道開発土木研究所理事(現㈱開発工営社 取締役)の能登繁幸技術士が出版された「ちょっと斜(ハス)にかまえたエッセイ集」初版を紹介しました。今回その第2集が出版されましたので、再度紹介します。なお、本書の出版は、メーリングリスト「E.P.O.」でも発信されているので、もうすでにご存知の会員がいると思いますが、ご了承下さい。

本書は、著者がこれまでに執筆依頼を受けて書かれた原稿がもとになっています。この中には、この「コンサルタンツ北海道」に掲載されたものも収められています。㈱札幌メディア総合研究所発行の「Construction's Eyes」に掲載されたものが主になっています。本書の構成は、短編エッセイが16編、長編エッセイが20編、ちょっとまじめなエッセイ(著者曰く)が15編の計51編が集録されています。

簡単に紹介しますと、短編エッセイでは「ケータイ電話」という題で地下鉄や電車の中で守られもしないケータイ電話の使用の注意を、マニュアル通りに何度も放送する馬鹿さ加減と、それを無視してピコピコしているバカ者にはらを立て、それなら心臓ペース・メーカーや飛行計器に影響を及ぼさない携帯電話を作ればいいじゃないかと、言われています。確かにこの問題は、いつになったら解決するのか分からない状況です。地下鉄に乗るたびに、いつも腹立たしくなるといいます。でも、ちょっと待ってください。この問題、私のようなノンキなおじさんたちには、もともと関係ないのでは無いでしょうか? 地下鉄に乗っているときには滅多に電話がきませんし、だいたい電話やメールを送る相手もいませんから。残念!

長編エッセイでは、「テレビを見ていたら腹が立つ

てきた!」というのがあります。これには、パート2まであって、テレビ放送に文句を言われています。その番組の種類には、バラエティ番組からドラマ(冬ソナ)、歌謡番組、クイズ番組、野球中継等々、広範囲に及んでいます。著者のような方は、いろんなことに興味を持たれるから、話題が豊富でこのような本を執筆できるのかと、感心しました。しかしです。そんなに腹が立つくらいなら見なければいいのにと、ちょっと考えてしまいました。

ちょっとまじめなエッセイでは、技術者倫理に関する話題が多いのですが、私は「豊浜トンネルの記憶」というのがもっとも印象に残りました。私の担当業務は、土質基礎に関する研究業務でしたが、豊浜トンネル崩落事故を契機に岩盤を対象として業務に変わりました。私自身は、直接事故対応に関係していませんが、当時の状況を聞く度に、今担当の業務を早く完成させなければという焦りを感じます。

本書は、前書同様に著者のところに直接取りに来られた方のみ、無料でお渡ししているそうです。興味のある方はお早めに行かれることをお勧めします。ぜひ一読してみてください。



(文責：日下部祐基)